

<b>シメコナゾール・マンゼブ水和剤</b> <b>テーク水和剤</b>	<b>取扱メーカー：</b> 三井アグロ、ホクサン、丸和  <b>原体メーカー：</b> 三井アグロ、セレクサアグリ
<b>成分：</b> シメコナゾール〔エルゴステロール生合成阻害剤〕……………2.4% マンゼブ〔有機硫黄系 PRTR・1種〕……………65.0%	<b>性状：</b> 淡黄色水和性粉末45μm以下 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> ——

### 【品目特性】……………

- 治療効果・浸達性・移行性の高いシメコナゾールに、病原菌の胞子発芽や菌糸成育を強く阻害し広範囲の病害に優れた効果を発揮するマンゼブを配合し、保護効果を高めた殺菌剤である。
- 果樹、野菜の多くの病害に幅広く安定した効果を示す汎用性殺菌剤である。
- 作用性はサンリット水和剤、ペンコゼブ水和剤の項参照。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- りんご
  - モニリア病には、葉腐れの初発後すぐに散布する（効果）。
  - 斑点落葉病には、落花後20日頃までの初期防除として使用する（効果）。
- 水溶性パック（内袋）入りの製剤を使用する場合、次の事項に注意する。
  - 内袋は濡れた手で触れない。
  - 外袋の開封後は一度に使いきることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使いきる。

○薬液の調整は容器内に所定量の水の3分の1程度をいれた後、内袋を開封せずにそのまま容器内に投入する。その後、よく攪拌しながら容器内に水を所定量まで加える。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 適用作物（きゅうり、その他野菜など）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさける。
- ボルドー液との7日以内の近接散布はさける。

### 【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 粉末は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないようにする。万一眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- カブレやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器等は適切に処理する。



# 【適用と使用法】 .....

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	シメコナゾールを含 む農薬の総使用回数	マンゼブを含む農 薬の総使用回数
りんご	黒星病 赤星病 斑点落葉病 黒点病 うどんこ病 モニリヤ病 すす点病 すす斑病 褐斑病	600～ 800倍	200～ 700 ℓ	30日前 まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
なし	褐色斑点病	600倍		45日前 まで	2回以内		5回以内	
かき	うどんこ病 落葉病 炭疽病						2回以内	2回以内
みかん	そうか病 黒点病			500～ 600倍	30日前 まで		3回以内	3回以内
かんきつ (みかんを除く)	灰色かび病	600倍		90日前 まで				
ぶどう	べと病 黒とう病 晩腐病 うどんこ病 灰色かび病	1000倍	100～ 300 ℓ	45日前 まで	2回以内		2回以内	2回以内
すいか	炭疽病 うどんこ病 つる枯病	600～ 800倍		7日前 まで	5回以内		5回以内	7回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病							5回以内
きゅうり	うどんこ病 べと病 炭疽病 灰色かび病 褐斑病			前日まで	3回以内		3回以内	3回以内
ねぎ	さび病 べと病 黒斑病 葉枯病	600倍		14日前 まで			3回以内 (は種時は 1回以内)	
にんにく	さび病 葉枯病 白斑葉枯病	600～ 800倍		7日前 まで			6回以内 (植付前は 1回以内、 植付後の 株元散布は 2回以内、 散布は 3回以内)	5回以内
トマト	疫病 葉かび病 うどんこ病	800倍		前日まで	2回以内		2回以内	2回以内
かぼちゃ	べと病 うどんこ病 疫病	600～ 800倍		21日前 まで				